

乳腺検診

乳房には「脂肪」と「乳腺」組織があります。乳がんとは「乳腺」から発生する癌で、脂肪からは発生しません。乳がんは他のがんと同様に細胞の遺伝子異常の蓄積によって発生することがわかっています。また、発生・進展ともにホルモンに依存している点が乳がんの特徴です。最近の統計では乳がんが激増しており、1年に約4万人もの女性が新たに乳がんにかかっています。1960年頃には乳がんでなくなる方は年間2000人弱でしたが、現在では1万人の方がなくなっており、この50年間で5倍以上に増えていることになります。

乳がん検診には問診、視触診、マンモグラフィ検査、乳腺超音波検査がありますが、乳腺が発達している授乳中、および断乳後半年（もしくは1年）以内の方は検査精度が悪くなってしまい正確な診断ができなくなってしまうため検査を受けることができません。

乳腺検診における主な検査は次の3つです。

[問診・視触診](#)

[乳腺マンモグラフィ検査](#)

[乳腺超音波検査](#)